

写真展「透明人間 - Invisible mom -」



<写真展>

日時 / 2023年8月1日(火)～6日(日)
10時～19時 (最終日17時まで)
場所 / 藤沢市市民ギャラリー 展示室2,3
入場無料

山本美里

with 飛鳥たち (藤沢市肢体不自由児者父母の会会員)

主催 / 藤沢市肢体不自由児者父母の会
共催 / 藤沢市 後援 / 藤沢市教育委員会

<トークイベント>

日時 / 2023年8月5日(土)
14時から16時(開場13時半)
場所 / 藤沢市役所分庁舎 活動室1, 2
手話通訳/要約筆記有

会場参加申し込み(先着50名) 入場無料

Nico's kitchen 0466-90-3494

藤沢市肢体不自由児者父母の会

asukafujisawa1961@gmail.com

オンライン (Zoom) 参加 (200名)

申し込み ⇒



「透明人間 -Invisible mom-」 山本美里

私の息子は重度心身障がい児です。また、日常的に医療的ケアが必要な「医療的ケア児」でもあります。現在彼は東京都の特別支援学校に通っています。

特別支援学校にはそれぞれ看護師が配置されていますが、一部の医療行為が学校での医療的ケアとして認められていないため、看護師には行うことが出来ません。そのため、そういった医療行為の必要な子どもの保護者は、それらを行うために学校に付き添わねばなりません。私はその付き添いをしなければならない保護者の一人です。

現在この国には約2万人の医療的ケア児が存在していると言われています。全国の公立特別支援学校の通学籍には6336名の医療的ケア児が籍を置き、そのうち460名の保護者が学校に付き添いをしています。（2018年度文部科学省調べ）

また、医療的ケア児はスクールバス乗車が出来ないため、保護者が毎日学校へ自主送迎します。自主送迎や学校付き添いができない家庭の子どもは訪問学級に籍を置き、通学することが出来ません。

2019年度より東京都では医療的ケア専用車両の運行が本格的に始まりましたが、自治体によっては看護師の確保が不十分で、看護師の確保が出来ない日はバスに保護者が同乗し医療的ケアを行うなど、単独通学には程遠い現状があります。

特別支援教育の場で、子どもたちが障害の種類や医療の有無、また必要としている医療の種類で区別されています。そのため、保護者の生活にも格差が生じています。

どんな子どもでも当たり前のように学校に通えるようになること。子どもたちがどんな風に産まれてきても、私たち母親が自分たちの人生を諦めずに生きられる社会になることを願って、この作品を制作しました。

医療的ケア児とその母親が抱える特別支援学校の「今」を知ってください。



<藤沢市肢体不自由児者父母の会より>

私たち藤沢市肢体不自由児者父母の会は、1961年よりこの地域での障害当事者とその家族の抱える困難や課題について継続して取り組んでいます。

山本さんの作品に強く共感し、卒業後も続く、成人した当事者と老いていく保護者のことも含めて知っていただきたいという思いで今回の写真展を企画いたしました。

湘南藤沢で暮らす「障害児者と家族たち」について知り、みなさんの心にそれぞれのおみやげを持って帰っていただけたらと思います。